

国語〔問題〕

(100点・90分)

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見たり、裏返したりしてはいけません。
2. この問題冊子は26ページあり、解答用紙は1枚(両面)です。
試験中に問題冊子・解答用紙の印刷不鮮明、ページの落丁などに気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
3. 試験開始後、ただちに解答用紙の所定記入欄に、氏名・受験番号・誕生日をそれぞれ正しく記入し、さらに受験番号・誕生日をその下のマーク欄にマークしなさい。
4. 受験番号・誕生日が正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
5. 解答は、解答用紙の解答欄に各設問で指示された方法で記入しなさい。
マーク方式は、例えば、

20

と表示のある問いに対して②と解答する場合は、次の(例)のように解答番号20の解答欄の②にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄
20	① ● ③ ④

6. 問題冊子の余白等は、下書きなどに適宜利用してよいが、各設問で指示された解答は、必ず解答用紙の解答欄に指示された方法で記入しなさい。
7. 試験終了後、提出は解答用紙のみとし、問題冊子は持ち帰りなさい。

第一問

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

そもそも、なぜアイドルに対して執着し、隠れて異性と交際していたら怒ってしまうのかというと、私たちはみな他者のイメージを使うことで自分自身が何者かというアイデンティティを作り上げているからです。このことは精神分析という学問が議論していることなのですが、精神分析を背景に「推し」文化を論じている、^(注1)鳥羽和久の議論を参考にして考えてみましょう。鳥羽は次のように言います。

私たちは誰でも多かれ少なかれ、他者を「使用」¹することで主体化を実現します。私たちが使っている言語さえ、もともとはすべて他人から与えられたものであることを思い返せば、他者を使用せずに主体化するなんて、どだい無理な話だということに気づかされます。(『推し』の文化論 一三五頁)

鳥羽の議論を理解するために、ちよつと赤ちゃんの気持ちになつてみましょう。生まれたばかりの赤ちゃんは、世界がどのようなになっているか、自分がどういふ存在なのかもわからず世界に生まれ落ちます。生まれたばかりで、例えば世界が三次元空間としてできていることさえも知らないとしたら、赤ちゃんのあなたの目に映るものはさまざまな色の光の点滅に過ぎません。それが母親、父親、ベッド、^aホニウビンなどに分節できることを理解するのは、世界の中で時間を過ごし、自分の動作に対して他人が反応することで、自他の区別が生まれてからのことです。生後六〜一八ヶ月には赤ちゃんは鏡の中に映る自分を自分であると認識できるようになり、自分という存在のイメージを獲得するため、この時期は鏡像段階と呼ばれます。その後、人間は言語を学習し、ある特定の言語が持っている世界の分節の仕方を学ぶことで、²人間社会とコミュニケーションが取れるようになります。「他者を使用せずに主体化するなんて、どだい無理な話だ」というのはこのことを言ったものです。

その上で、鳥羽が「推し」というものを、鏡像段階を経て言語を獲得する人間の主体化プロセスと深く関わったものとして論じています。次の引用文を見てみましょう。

「推す」行為は「推し」を通した利那的、情動的な主体性獲得の運動であり、まさに推しを「使用」する運動なのですが、このことに自覚的でない人もいます。推しを推すときに、人は推しの輝かしさだけでなく、推しのずるさや不完全さを自らの主体に一致させることを通して、不甲斐ない自分を愛でています。

しかし、そのことに無自覚になり、推しが使用できなくなったと感じた瞬間に、推しに対して攻撃的になることもあります。推しがまるで自分の主体化を妨げる存在のように感じられて憎み始めてしまうのです。（同、一三五―一六頁）

「推し」が情動的な主体性獲得の運動だというのはわかりやすいと思います。アイドルや芸能人にハマると、そのアイドルや芸能人というものが自分らしさと深くつながっているという感覚を持つ人も多いでしょう。そのようにアイドルや芸能人という他者のイメージを「使用」することで自分の主体性を獲得するわけです。これが自覚の上でやっていることなら問題ありません。しかし、アイドルや芸能人が、自分の主体を作り出すためのイメージとしての「使用」の範囲を逸脱した生身の人間であることがロテイすると、その事実には耐えられず攻撃してしまうことはよくあります。これは、隠れて恋愛をしているアイドルに攻撃性を向けてしまうメカニズムの説明として考えるとわかりやすいでしょう。自分という人間のアイデンティティーを安定させてくれる「キャラ」として使えるうちは愛するけれど、そうでなくなれば困るので攻撃するということです。

例えば、二〇一三年に当時AKB48に所属していた峯岸みなみが頭を丸刈りにして謝罪した事件などは典型的な事例だと思います。週刊誌に男性と一緒に宿泊していたことが報道され、峯岸はYouTubeに動画を投稿し謝罪しました。その

中で、彼女は丸刈りの頭で登場し、声を震わせながら涙ながらにメンバーやファンに謝罪しました。峯岸が謝罪した理由はAKB48が恋愛禁止だからということなのですが、そもそもアイドルという仕事をやっている以外のプライベートの間では恋愛は自由であるべきではないでしょうか？ また、禁止されている恋愛をしたことを謝罪する必要があるということをおに認めるとしても、その謝罪の形が丸刈りになって泣きながらというのは、過剰な嗜虐性をぶつけられているように思います。

なぜアイドルにはこれほどの過剰な感情的執着がまわりつくのでしょうか？

他者の「使用」という鳥羽の観点から説明ができそうです。要するに、アイドルというものは、歌やダンスといった芸を商売道具にしているのではなく、その未熟さも含めた全人格的存在全体を、観客が主体化をするための使用可能なイメージとして売っているのです。だからこそ、仕事とプライベートの区別など存在せず、安心して利用できる他者のイメージを提供し続けることが求められ、そのイメージを逸脱した場合、強い攻撃性が向けられてしまうのです。

このように他者を利用して自分自身の主体化を試みるという行動は、アイドルや芸能人に限りません。鳥羽は、レイシズムとの関係を次のように指摘します。

敵をあえて作り出して鏡としての自己を権威化することで主体化を果たしたにもかかわらず、言い換えれば、敵という他者を使用して主体化を実現したにもかかわらず、そのことを隠蔽^cしてしまうのがレイシズムの問題だとすれば、「使用」に無自覚なファンたちは、「推し」が私の主体化を支えてくれたという事実を忘却することで、易々とレイシズムに近接します。(同、一三六頁)

ちょっと難しいかもしれませんが、補助線を引きましょう。ここで鳥羽が言っているのは、一般的には「オリエンタリズム」の問題として理解できます。オリエンタリズムとは西洋が東洋を他者としてまなざし、翻ってそれとは異なる

るものとして自分自身の主体性を確立するメカニズムのことです。例えば、東洋の人間を感情的なものと描き出すことで、西洋の人間は自分たちを理性の側に置き、東洋人は **A** と言うことで、西洋人は自分たちに **B** を割り当てるとするような操作のことを言います。このような自分自身の主体性を作り出す作用としてのオリエンタリズムを支えているのは「○○人は××である」というステレオタイプな人種主義^{レイシズム}です。

この他者をステレオタイプ化して自分の主体性を確立する作用はさまざまな領域で見られます。「女」、「男」、「トランスジェンダー」、「外国人」、「マイノリティー」、「左翼」、「ネトウヨ」といった記号に、他者の複雑さがシク^dクゲンされてしまい、単純な敵として外部化され記号として消費されます。特に「女性」という記号がそのように「使用」されてきたことは、第一章で紹介した、AKB48の「ヘビーローテーション」のMVがオリエンタリズム的な構造を持っていることからわかるでしょう。

さて、鳥羽が強調することは **C** の弊害です。すでに述べたとおり、AKB48の「ヘビーローテーション」のMVが、女性たちを覗き見る快楽を与えていることは間違いありません。しかし、だからといってこのMVがそれ自体として禁止されるべきではありません。現代ではこのような表現を楽しむのはヘトロセクシャルの男性ばかりではないでしょう。もちろんこのような表現を好まない人もいるでしょうが、このような表現を欲望の対象とすること自体は、AKBグループの労働環境に問題がなく、アイドルになりたい若者と運営側の間に権力の差に基づく事実上の強制などがなく、また出演している本人たちが皆成人ですべて説明されて同意しているのであれば、問題はないと思います。

しかし、これがあなたに快楽を与え、ある主体のあり方を与える表現であり、あなたがこれを使用しているのだということをお忘れしましたら、あなたのこうした表現への愛着は期待を裏切ったアイドルへの攻撃性へと変わってしまうでしょう。

アイドル産業というものが、そのような「使用」の事実を忘却させたがっていることも事実です。なぜならば、アイドルが「本当の自分」を見せていると思わせておいたほうがより売れるからです。そういったビジネスサイドの事情はとも

かく、ファン研究や人文文学の立場からは、ファンたちに「使用」に自覚的になってほしいと思います。

なぜかという、ビジネスが私を騙すのが悪いのだという主張は、言い換えると「私が子供であることを認めろ」ということになるからです。私たちにたくさん消費させたい資本主義の消費文化は、私たちが成熟を拒否し幼児的に振る舞うことを奨励します。ファンたちがアイドル産業の性差別や労働環境の問題に目をつぶって商品を購入し続けてくれば、アイドル産業はそのままの状態です。

あなたがアイドルを好きだとしたらなぜなのか、そのことをよく考えてみましょう。あなたがアイドルのことを自分の欲望のために消費するだけではなく、その向こうに生身の人間がいると考えるならば、そのアイドルのために子供であることをやめて、公正なビジネスに対して抵抗の声をあげることがあってもいいはずです。

商業的なエンターテインメントそれ自体はただの商品です。それは資本主義の論理に従って、あなたの欲望を刺激し快楽を与えることで、お金を払わせるためのビジネスです。ビジネスではなく本当の意味で文化を立ち上げるとしたら、それはあなたがその商品を受容するときに、ビジネスサイドの仕掛けに対して自分自身の欲望の理解を深めるところから始まります。

このことを考えるために、『テラスハウス』出演者の自死について考えてみましょう。

二〇二〇年五月、人気リアリティ番組『テラスハウス』の出演者である女子プロレスラーの木村花の自死が報じられました。同番組の中で木村は、攻撃的で暴力的な側面を強調する演技をさせられており、自死はそのことに対して視聴者がSNS上で行った誹謗中傷を苦にすることだと報じられています。そうした演技を煽った番組制作体制や匿名のSNSユーザーによる執拗な攻撃が、木村の自死を招いた原因として批判されています。これらの批判はもつとですが、人々の欲望と切っても切れない関係にある映画やテレビの長い歴史から考えると、『テラスハウス』という番組はまさに映像産業が到達すべくして到達した姿です。私たちの欲望がこの事件を生み出したのです。

リアリティ番組という概念は非常に広い範囲をカバーするため、その特徴を一般化することは難しいものですが、『テ

ラスハウス』の人気は「覗き見」と「関係性」という二種類の快楽で説明できます。

覗き見の快楽とは、さきほど言及した「ヘビーローテーション」が鍵穴から覗き込む構造になっていることに表れているような、他人の生活を隠れたところから観察することの快楽です。『テラスハウス』はまさに一つ屋根の下に暮らす出演者たちの私生活を覗き見して楽しむ番組です。

もう一つの関係性の快楽とは、登場人物の人間関係が視聴者の消費の対象となっていることを指します。例えば、同じリアリティ番組でも『料理の鉄人』であれば、あくまで料理の内容が興味の対象となります。しかし、『テラスハウス』のような番組は、登場人物たちの間での恋愛や競争が視聴者の関心の対象となります。この点は日本のアイドル研究ではよく議論されており、性別を問わずファンたちはグループ内のアイドル同士の友情や競争といった関係性を娯楽として消費していることが指摘されていますし、それは「ヘビーローテーション」のMVの中で、下着姿の女性たちが戯れている姿が描き出されていることからわかるでしょう。

『テラスハウス』は、普通は見ることができない他人の日常生活を覗き見し、さらにはその中で生じる人間関係の摩擦を娯楽として提供するものです。このような覗き見と関係性の快楽の組み合わせは比較的近年のものかもしれませんが、観客や視聴者の欲望にアピールする手法は二〇世紀を通じた映画とテレビの歴史の中で発展してきました。『テラスハウス』はまさにこれらの産業の申し子です。

D、『テラスハウス』という特定の番組だけが問題というわけではありません。例えば、日本のワイドショーはニュースを淡々と伝達するというよりは、他人の人生を覗き見し彼らの複雑な人間関係を興味本位で楽しむ場となっています。『テラスハウス』で木村花が「生意気な女」というヒール役を演じさせられたように、テレビのワイドショーでは日々視聴者の不安や怒りといった感情を煽るためにどこかの誰かが悪人に仕立て上げられています。社会の公的な問題を、家族や友人との関係といった個人的なことを取り扱うメロドラマの手法で描き出すことで、私たち視聴者の欲望を刺激し視聴率へと換金するのがワイドショーです。

ワイドショーに典型的に見られるように、公的な問題と私的な感情を意図的に混同する手法は、『テラスハウス』においては「演じない自分を演じる」という自己矛盾的な労働形態として現れます。リアリティ番組は建前上、台本のないリアリティを売りにしています。もちろん、現実的ななんの意図や期待もなしに番組制作が行われるはずもなく、結果的にそれぞれの参加者が、プロデューサーや監督の意図を汲み取りながら、ワイドショーで戯画化^eされるようなキャラクターをあくまで素の自分として演じるのです。生活を共にする中で自然に発生するさまざまな

Fとして切り売りするのが、リアリティ番組の**G**たる出演者たちの「演じない自分を演じる」感情労働です。

木村花が晒されていた「演じない自分を演じる」労働のプレッシャーは、おそらく今の若い人はいつも感じていることなのでしょう。学校の中では単にペーパーテストの点数ではなく、「主体的に学ぶ意欲」や「他者との協調性」といったものが測定され、いわば常に感情労働を行なっているようなものです。そうした若者たちが彼ら自身の安定した主体化のためにアイドルという他者のイメージに頼ってしまうこと自体は理解できる部分もあります。

（渡部宏樹『ファンたちの市民社会』による）

注1 鳥羽和久……一九七六年生まれの日本の教育者。専門は、日本文学・精神分析。

注2 AKB48……二〇〇五年に活動を開始した日本の女性アイドルグループ。

注3 MV……ミュージックビデオ。AKB48の曲「ヘビーローテーション」のMVでは、下着姿のメンバーが戯れている様子を鍵穴から覗き込むような演出がされている。

注4 『テラスハウス』……一つのシェアハウスで暮らす複数の男女の様子を記録した日本のリアリティ番組。リアリティ番組とは、一般出演者や無名の芸能人などが、決められた台本がない現実の状況のなかで行動する様子を見せる番組のジャンル。

問一

――線部 a と e の漢字は読みをひらがなで、カタカナを漢字に直して楷書で書きなさい。解答番号は a 1・

b 2・c 3・d 4・e 5。

問二

――線部 1 「主体化」とあるが、どういうことか。その説明として最も適切なものを、次の ① ～ ④ のうちから一つ選びなさい。解答番号は 6。

- ① 自分自身が何者かというアイデンティティーを作り上げること。
- ② 目に映るさまざまな光を感じ取り、理解できるようになること。
- ③ 他者を「使用」しながら、「推す」ことが可能になること。
- ④ 言語によって世界を理解し、自分で判断できるようになること。

問三

――線部 2 「人間社会とコミュニケーションが取れるようになります」とあるが、そのためにどのようなことが必要だと筆者は考えているか。適切でないものを、次の ① ～ ④ のうちから一つ選びなさい。解答番号は 7。

- ① 言語を学習し、ある特定の言語が持っている世界の分節の仕方を学ぶこと。
- ② 世界の中で時間を過ごし、自分の動作に対して他人が反応すること、自他の区別が生まれてくること。
- ③ 三次元空間としての世界や特定の言語の使用の仕方を、母親が主体的に教えること。
- ④ 鏡の中に映る自分を自分であると認識できるようになり、自分という存在のイメージを獲得すること。

問四 — 線部3「推しを『使用』する運動」とあるが、どういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①

④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 8。

① 不甲斐ない自分を愛でるために、「推し」のずるさや不完全さを言い訳として「使用」すること。

② アイドルや芸能人という他者のイメージを「使用」することで、自分の主体性を獲得すること。

③ 自分のキャラを演じるために、自分に似ている「推し」を主体的に「使用」すること。

④ アイドルや芸能人のイメージを情動的に「使用」して、「キャラ」を作り上げて愛すること。

問五 — 線部4「過剰な嗜虐性」とあるが、どういう意味か。その説明として最も適切なものを、次の①～④のうち

から一つ選びなさい。解答番号は 9。

① 自分を責めることで赦しを得ようとする、過激な自傷行為。

② むごたらしい行為を愛好する、現代社会全般に蔓延する嗜好性。

③ 常軌を逸した正義感から、過ちを犯した人を執拗に責め続ける性向。

④ 他者に苦痛を与えることで得られる快楽を、過度に求める性質。

問六 空欄 A・B に入れる最も適切な語句の組み合わせを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

解答番号は 10。

① A サボらず真面目に仕事をする | B 怠惰という烙印

② A 仕事をせず怠けてばかりいる | B 怠惰という烙印

③ A サボらず真面目に仕事をする | B 勤勉という美德

④ A 仕事をせず怠けてばかりいる | B 勤勉という美德

問七 空欄

C

に入れる最も適切な語句を、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は

11。

- ① 「使用」に無自覚になること
- ② 安易なオリエンタリズムの使用
- ③ AKB48のMVを視聴する快楽
- ④ 「推し」への過剰な感情的執着

問八

——線部5「アイドルが『本当の自分』を見せていると思わせておいたほうがより売れる」とあるが、なぜか。その理由を、次の空欄にあてはまるように文中から四十五字以上五十字以内で抜き出し、その最初と最後の五字を書きなさい。句読点や記号も一字に数えます。解答番号は

12。

アイドルは、

から。

問九 ―線部6「映像産業が到達すべくして到達した姿」とあるが、『テラスハウス』の人気はどのように説明できる

か。筆者の考えとして最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 13。

① 出演者たちの私生活を隠れたところから覗き見することができ、しかもそこで起こる関係性はあらかじめ演出されてはおらず、絶えず予測を裏切る偶発性が視聴者の支持を得た。

② シェアハウスのリアリティ番組という構造が、他人の日常生活の覗き見と、その中で生じる人間関係の摩擦を娯楽として見せる二重の快楽を提供し、多くの人の心を捉えた。

③ 番組内の「覗き見」と「関係性」という快楽に加えて、視聴者同士が話題を提供し合える匿名の掲示板というメディアの活用がこれまでの映像産業を超える発明だった。

④ 視聴者の感情を揺さぶるために木村花の攻撃性が演出されたことで、登場人物の人間関係自体が消費の対象となり、継続的な視聴率獲得につながった。

問十 空欄 D

に入れるのに最も適切な語を、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 14。

① むしろ

② 逆に

③ したがって

④ ところが

問十一 空欄 E ・ F ・ G に入れるのに最も適切な語句の組み合わせを、次の①～④のうちから一つ選び

なさい。解答番号は 15。

- | | | | | | | | | |
|---|---|-------|--|---|----------|--|---|-----|
| ① | E | 自己矛盾 | | F | 番組 | | G | 参加者 |
| ② | E | 欲望 | | F | 視聴率 | | G | 犠牲者 |
| ③ | E | リアリティ | | F | 不完全なアイドル | | G | 表現者 |
| ④ | E | 感情 | | F | 商品 | | G | 労働者 |

第二問

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

子どもの読解について調査をしたアメリカの The RAND Reading Study Group のジュウダン^a 調査の結果によると、¹「三年生で学年レベルの成績であった子どもがそのまま熟達した読み手になるわけではない」と指摘されています。これは、学年が高くなるにつれて、スラスラ読むスキルだけでなく、読解方略の使用が重要になってくるためだと考えられます。三年生くらいまでは、複雑な文章を読む機会は少なく、内容も自分が知っている日常的な生活に関するものが多いと考えられます。そのため、スラスラ読み上げられれば、知っている単語が出てくるし、^(注1) 統語における推論の必要性も高くなく、^(注2) 状況モデルを作りやすい場合が多いと言えます。

ア、学年が高くなると、より長くより複雑な文章を読む機会が増していきます。そうすると、スラスラ読めても統語における推論が必要になったり、^(注3) テキストベースや状況モデルを構築するための主体的な取り組みが必要になってくるのです。この「主体的な取り組み」が読解方略の使用だというわけです。

具体的に、どんな方略があるのでしょうか。私自身が行った調査では、説明文を読むときの方略を大きく三つのグループに分けて整理することができました。

一つ目は「理解補償方略」と名付けた方略グループで、部分的なつまずきや表面的なつまずきを解消するための方略です。このグループに入る方略の一つが「意味明確化」です。わからない単語があったときに、前後の文脈からどういう意味か推測したり、そのままではわかりにくいと感じたときに自分にとってわかりやすいことばに置き換えたりすることで。基本的な「読みのプロセスのコントロール」もこのグループに入る方略です。みなさんも、あれ？ なんだかわからなくなったり、と思ったときにもう一度読み直すとか、ゆっくり読んでみる、という方略をもちいるのではないのでしょうか。そう、これも立派な方略です。そのままなんとなく読み進めてしまったら、表象が構築できませんから、意図的に立ち止まったりゆっくり進んだりしているのですね。

二つ目のグループの方略は、説明文を読むときに書いてある内容を学習しようとするものだったので、「内容学習方略」と名づけられました。そのため、このグループの方略は「内容学習方略」のための方略としてまとめられました。この中に入る方略の代表格は、大事などころを見つけたら、メモしたりする「要点把握」の方略です。「要点把握」の方略は学校でも指導されることが多い方略の一つです。

「イ」、同じ「内容学習方略」グループの方略でありながら、あまり学校では取り上げられていないのが「質問生成」です。「質問生成」は、たとえば、先生だったらどんな質問をするかな、と考えたり、キーワードについて自分で説明できるかな、と自分の理解を確認するような質問を考えることです。

「ウ」、「まだよく分かっていない感じもするけど、とりあえずこはそのまま覚えておいて先に進もう」というように、とにかく覚えてしまおうとすることもあつたでしょう。これを「記憶」方略と名付け、「内容学習方略」グループの一つと位置づけました。「記憶」方略はあまり望ましくないように思われそうですが、実際には要点把握や質問生成の方略を用いる人ほど記憶方略も用いる傾向があつたので、これらはすべて書いてある内容を理解するために有効な方略として読みに用いられているのだらうと考えられました。

三つ目のグループは、文章に明示的に書いていないことに目を向けて理解を深めようとする「理解深化方略」グループです。このグループの方略で、学校の国語の授業でよく取り上げられるのは「構造注目」²の方略です。これは、文章がどのような構造になつているのか、たとえば接続詞に注目して全体の構造を把握しようとしたり、段落ごとのまとまりに目を向けたりする方略です。多くの文章は「この文章は最初に問題を二つ提示して、その後で対応する解決策を示します、最後にそれらの実例を挙げます」というような文章全体の構造を明示的に書いてはくれません。見出しや接続詞などのヒントを使いながら、読み手が自分自身で把握していく必要があります。また、その把握した成果がテキストベースに反映されると考えられます。もう一つの「理解深化方略」グループの方略は、「既有知識活用」^bです。第六章でお話したように、文章の全体像を把握し明確な状況モデルを構築するためには、自分の知識をうまく使う必要があります。タイトルや見出し、先行オーガナイザー^(注4)などの形で、文章が既有知識をうまく活性化してくれることもあります。いつも期待

できるわけではありません。文章を読むときに、自分が知つてのこととどんな関係があるか、前に勉強した内容とどのようなつながっているかを考えることで、状況モデルを明確にしていくことが説明文の理解にとっては重要だと考えられます。

(中略)

読解方略を意識的に使うことで、より明確で一貫性の高いテキストベースや状況モデルの構築ができるということは、一九八〇年代以降の心理学の研究において繰り返し確認されてきました。Ⅰ、どれを使つても同じ、ということではなく、例えば「**A**」の方略を用いると文レベルでの正確な理解が可能になる、「**B**」の方略を用いることでより本文の主旨を適切に捉えたテキストベースが構築される、というように、その方略が対応するボトムアッププロセスが改善されるということが示されています。

特に、読むのが苦手な児童・生徒に対して、方略を指導し、方略を使う練習をすることによって、読解成績を向上させるといふ指導は数多く実施されていて、読解指導はまず方略を教えることから、というのが教育心理学的には「常識」となっています。

では、どうすれば読解方略をよりよく身につけることができるのでしょうか。心理学の研究では、学校でどのように教えるかという点に焦点を当てた研究がたくさんあるのですが、ここでは、それらを踏まえてみなさん自身が方略を身につけるためのポイントをいくつか示したいと思います。

まず重要なのは、どのような方略があるのか、方略についての知識を持つことです。読むのが苦手な生徒に読解方略を説明すると「読むときのやり方なんて考えたことがなかった」「もっと早く教えてくれればいいのに!」と言われる事が少なくありません。学校でも読解方略を教わつてはいるのですが(少なくとも先生は教えていると考えていると思うのですが)、「いいですか皆さん、これが『読解方略』ですよ! 使うとこんな良いことがありますよ!」と説得されているわけではなく、さり気なく教えられているために、印象に残らないということもあるのだと思います。

(中略)

知っているだけでは方略の効果は発揮されません。使って読んでみましょう。練習、練習！しかし、やみくもにやってもうまくいかなかったり、やる気が出なかったりします。新しい方略を使ってみるというのはなかなか大変なことで、どうしても「方略を使ってもあんまり意味がない(にちがいない)」「めんどうくさい」「そんなことより××するほうがいい(に決まっている)」という気持ちが^cワいてきます。よく分かります。新しいことを取り入れるのはめんどうですし、初めはうまくいかないことも多いでしょう。そうになると、読むことが嫌になってしまいかもしれません。

これを防ぐためには、ほかの人の力を借りるのが最も効果的です。たとえば「うまく読めたかどうか」をチェックしてくれる人がいると効果がアップします。理想的には家庭教師や学校の先生、お兄さんお姉さんなど、自分よりも読むのが上手な人(しかも方略を使っている人だとなお良し!)に、文章の主旨を捉えられているか、判定してもらったり、方略がうまく使えているかを確認してもらえるとよいですね。

友達といっしょにやってみる、というのも悪くありません。先生のように上手に「ここがよかった、こういうところに気をつけて」というアドバイスはしてくれないかもしれませんが、お互いに読んだ内容を相手に説明して、ちゃんと伝わるか試してみるとよいです。自分の頭の中に状況モデルを作って、それを今度はことばで誰かに伝えてみるのです。相手にはぜひ、説明を聞いてもわからなかったところを遠慮なく質問してもらいましょう。そうやって練習していく中で、「要点把握の中ではこの方略が使いやすいな」とか「必ずこの方略を使うとうまく理解できるな」と「自分³なりの方略セット」が作れると思います。原則として重要な方略カテゴリーについての知識はすでに皆さんは知っているので、その中でのお気に入りを使いこなせるように練習するとよいです。

また、だれかに説明してみる、説明を聞いて質問する、というやりとりが読解方略の習得に役立つ、ということも重要です。一九八〇年代から、他者とのやり取りを通した方略の獲得が研究されて、その効果が示されています。私も、認知科学者の清河幸子さんとの共同研究で、説明活動による読解の促進について研究しました。私たちの研究では、「読むの

が苦手」という中学生Aさんに大学院生とペアになってもらって、相手が内容を知らない文章について説明する「相互説明」⁴という活動をしてもらいました。

自分が説明するためには、方略を用いてテキストベースをうまく構築しなくてはいけません。また、大学院生の説明を聞いて、わからないところを質問するという活動も取り入れました。Aさんと大学院生がお互いに説明をし合うので「相互説明」なのです。質問は、「質問生成」の方略につながるだけでなく、自分が読んでいるときに「ちょっと分かっているところがあるぞ」と気がつくのにも効果的だと考えました。私たちがこの指導を行ったとき、はじめは「説明も質問も自然とできるに違いない」と考えていました。しかしやってみると、はじめはうまくできないことがわかりました。たしかに説明も質問も「方略」がわからなければ手が出せません。そこで、説明の仕方、質問の仕方として方略を教えると同時に、なぜそれが重要かについても丁寧に説明してから改めて練習してみました。

練習を続けるうちに、Aさんは説明がうまくなり、質問も重要なポイントを押さえたものになっていきました。さらに、文章を要約する課題にもより適切に答えることができるようになりました。これは、⁵テキストベースをうまく作れるようになったのだと解釈することができました。

この「相互説明」の活動のポイントは三つあると私たちは考えています。一つは、説明できるようになることがテキストベースの構築を助けられるということです。理解するというのは自分の外にある情報を頭の中に再現することですが、それをもう一度外に出すことを意識するのに意味があるのだと考えられます。日常的にも、誰かに質問されると「分かっていたつもりだったけど実はよく分かってなかったな」と気がついたり、説明し直すことで自分の頭がスッキリしたりするという経験をしたことがある人もいないでしょうか。

このような説明することの効能は、一九八〇年代から、アメリカの教育心理学者、チイを中心にくさんの研究が^dチェックされています。チイたちの研究では、文章を読んだあとでその内容についてテストをするという課題を出しています。実験参加者の半分には「一文ずつ読んだら自分で説明し直す」という自己説明をするよう指示しました。もう半分の人に

は「後でテストをするのでよく読んでください」とだけ指示しました。実験の結果、事後のテストの成績を比べると、自己説明をした人たちのほうが、状況モデルができていないと解答が難しい問題のできがよくなることがわかったのです。

「相互説明」でも自分が説明するときには同じような効果が発揮されたのだと考えられますが、相手がいることで説明がより自然な文脈でできることや、質問されることでよりよい説明が促される⁶というところは、だれかと一緒にやってみることの利点と言えるかもしれません。

二つ目には、自分が知らない内容について、相手の説明を聞いて質問を考えることが、「分かっているかどうかをチェックする」練習になったということです。Aさんの様子を見ると、適切な質問をすることは、説明する以上に難しいようでした。考えてみると、学校の中でも質問の練習はあまりなされていないように思います。「ここがわからない」と指摘することは、説明する人のテキストベースのつながりが不十分なところを指摘することです。ですから、よい質問がなされることは、説明する人の理解を向上させることにつながる「よいこと」なのですが、どうも質問が良いこととは思えない人もいます。中学校で話を聞いたところ「質問されると、自分の説明がダメだったと思って残念な気持ちになる」という生徒が多かったので、質問することにネガティブなイメージを持っている人も多いのかもしれませんが。「質問は相手のため」ということがみんなに共有される必要があるということですね。

三つ目に、方略の意味とやり方を明示したうえで練習したことです。単に「たくさんやったらそのうちできるようになる」とひたすら練習するのではなく、なぜそれが必要か納得することが、練習の効果を高める上で非常に重要です。ですから、方略がなぜ有効か、活動のポイントはどこかということについて、この本を読んで納得できたという人は、練習もうまくいきやすいと考えられます（そういう意味でこの本の責任は重大ですね）。

読むことの練習をする、という点、一人で静かに、というイメージがあるかもしれませんが、ですが、心理学の研究では、仲間と練習したり、一緒に一つの文章を読んだりする中で読解方略が獲得されること、それによって読解能力が向上していくことが分かっています。もちろん、誰かと一緒にやるのはちょっと恥ずかしいな、という人は、まずは説明をし

ようとしてみる（チイの自己説明をやってみる）ことから始めても良いと思います。説明できるかな、と自己質問するだけでも一歩前進です。

（犬塚美輪『読めば分かるは当たり前?』による）

注1 統語……語や文が構成される仕組み。

注2 状況モデル……文章の内容と読み手の知識や推論が結びついて頭の中に作られるイメージ。

注3 テキストベース……文章に書かれていることをそのまま理解した内容。

注4 先行オーガナイザー……学習の前に提示される概略や枠組み。

問一

——線部 a ～ e の漢字は読みをひらがなで、カタカナを漢字に直して楷書で書きなさい。解答番号は a

b

17

・ c

18

・ d

19

・ e

20

。

16

・

問二 ―線部1「三年生で学年レベルの成績であった子どもがそのまま熟達した読み手になるわけではない」とあるが、

なぜか。その理由として最も適切なものを、①～④のうちから一つ選びなさい。 解答番号は 21。

① 三年生までの文章は、よく知っている言葉を使った日常的な内容のものが多く、この時点で学年平均程度の成績では、熟達した読み手になるための読解方略を身につけるのは能力的に困難であるから。

② 学年が上がると文章の語彙が急速に専門的になり、単に文章をスラスラ読み上げる能力だけでなく、知らない単語の意味を調べたり推測したりする力が必要になるから。

③ 三年生時点での読みの成績評価は、その後の学年で求められる読解能力とは異なる側面を測っているため、将来の読解能力を予測する指標としての信頼性が低いから。

④ 学年が上がると文章が長く複雑になり、スラスラ読むことだけでなく、単語間の関係性の理解や、文章の内容を自分の知識と結びつけて全体像を組み立てるなどの理解が必要になるから。

問三 空欄 ア・イ・ウ・エ に入れる語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④のうち

から一つ選びなさい。 解答番号は 22。

① ア けれども ― イ しかし ― ウ 他にも ― エ つまり

② ア しかし ― イ 一方 ― ウ また ― エ もちろん

③ ア ところが ― イ そして ― ウ さらに ― エ そのため

④ ア 一方 ― イ 対して ― ウ 同様に ― エ さらに

問四 — 線部2 「構造注目」の方略」とあるが、これを読解において用いることの利点は何か。その説明として最も

適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。 解答番号は 23。

- ① 文章中の重要な箇所を効率的に見つけ出しそれに注目することで、内容の記憶と学習が促進される。
- ② わからない単語や表現があった際に、論理展開からその意味を推測し、部分的なつまりぎが解消できる。
- ③ 文章全体の論理的なつながりを把握することで、より明確で一貫性のある文章理解ができる。
- ④ 文章の組み立てを読み解くことで筆者の意図や感情に気付き、より深い文章理解につながる。

問五 空欄 A・B に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選

びなさい。 解答番号は 24。

- ① A 要点把握 — B 意味明確化
- ② A 構造注目 — B 既有知識活用
- ③ A 既有知識活用 — B 構造注目
- ④ A 意味明確化 — B 要点把握

問六 — 線部3 「自分なりの方略セット」とあるが、どういうことか。説明として最も適切なものを、次の①～④の

うちから一つ選びなさい。 解答番号は 25。

- ① 読解に特別な意識や努力を払わなくても、読んでいれば誰にでも自然に身につく読解方略の集まりのこと。
- ② 文章を読む時に、自分が最も使いやすく効果を実感している、つまりき解消のための複数の読解方略のこと。
- ③ 学校で教わった読解方略ではなく、読解の習熟過程で独自に考案した、新しい読解方略の組み合わせのこと。
- ④ 読解の習熟過程で見出した、自分が最も使いやすく理解を深めるのに効果的な読解方略の組み合わせのこと。

問七

——線部4『相互説明』という活動」とあるが、読解力向上のためにこの活動を行う意義は何か。その説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は

26。

① 他者に説明することが方略を用いたテキストベース構築の練習となり、他者への説明や質問のやりとりを通して自身の理解度を能動的に確認し理解を深めることができること。

② 他者への説明や質問のやりとりが読解の速度を速め、それにより多くのテキストベースを構築することにつながり、知識を増やすことができること。

③ 互いに説明をすることは、自分と他者の文章の読み方を比較することになり、読解方略には多くの種類があることを知り、状況に合わせた使い方を効率的に学習できること。

④ 他者とコミュニケーションをとることで、読書中の孤独感を解消し、読むことに対するモチベーションを維持できるため、テキストベースや状況モデルの改善につながる。

問八

——線部5「テキストベースをうまく作れるようになった」とあるが、Aさんはなぜテキストベースをうまく作れるようになったのか。理由として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 27。

① 一人で行う練習に比べて、大学院生と対話しながら文章を読むことで、難しい漢字や習っていない言葉が出てきた際にその場で質問や説明を受けることができ、テキストの理解が促進されたから。

② 大学院生に説明や質問をする活動を通してコミュニケーション方略を獲得したことで、他者に質問をすることに対するネガティブな印象が薄れ、自信をもつてテキストベースの構築に取り組めたから。

③ 大学院生との活動の際に、読解方略の具体的な使い方や、それらがどのようにテキスト理解に役立つのかについて事前に説明され、納得して取り組んだことが、練習の効果を高めたから。

④ 大学院生からの質問にうまく答えられなかった体験を通して、自分の理解が不十分な点を特定し、知識が不足する部分を詳しく調べることで、明確なテキストベースが構築されたから。

問九 ―線部6「自己説明をした人たちのほうが、状況モデルができていないと解答が難しい問題のできがよくなる」

とあるが、なぜか。その理由として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 28。

① 自己説明をすることにより、文章の難解な部分や論理の飛躍に自力で気付くためのモデルができるようになり、より難しい読解問題に積極的に挑戦しようとする意欲が高まるから。

② 自己説明を行うことで、文章の論理構造や見出し、接続詞に意識が向きやすくなり、これにより文章全体の構造である状況モデルを効率的に把握できるようになるから。

③ 自己説明を行う際、文章の内容を頭の中で再現し、それを自分の言葉でもう一度外に出すことを意識することで深い理解が生まれ、状況モデルが明確なものになるから。

④ 自己説明が、文章中の個々の単語やフレーズの意味を反復して記憶することにつながり、その結果として基本的な語彙知識が向上し、状況モデルが構築されやすくなるから。

問十 次を示す読解法は、具体的にはどのような読解方略を実践しているといえるか。本文中から五字以内で抜き出しな

さい。解答番号は 29。

教育学者の齋藤孝は「三色ボールペン」読解法というコツを提案しています。「とても重要なところは赤、まあまあ重要なところは青、（重要ではないかもしれないが）面白いと思ったところに緑の線を引く」というやり方です。

問十一 本文に書かれている筆者の主張と最も合致しているものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。解答番号は 30。

- ① 読解方略をひとりで習得することは不可能であるため、文章を互いに読み合う練習を重ねることが重要であり、その共同的な学習の積み重ねが、読解方略の獲得に効果的である。
- ② 読解方略には様々な種類があり、文章の内容によってそれらを使い分けることが大切だが、学校では読解方略をあまり教えていないので、読みの熟達者による個別的な指導が必要である。
- ③ 読解力には個人差があるが、読解方略についての知識を得るだけで読解力は飛躍的に向上するので、読むことが苦手な生徒に対する指導は、読解方略を教えることから始めるべきである。
- ④ 読解方略は複雑な文章を読むためには不可欠なものであり、その習得のためには、読解方略の知識を持ち、他者との相互作用を含めた意識的な実践をすることが重要である。